THE MAGAZINE FOR EDUCATION & NEW YORK LIFE

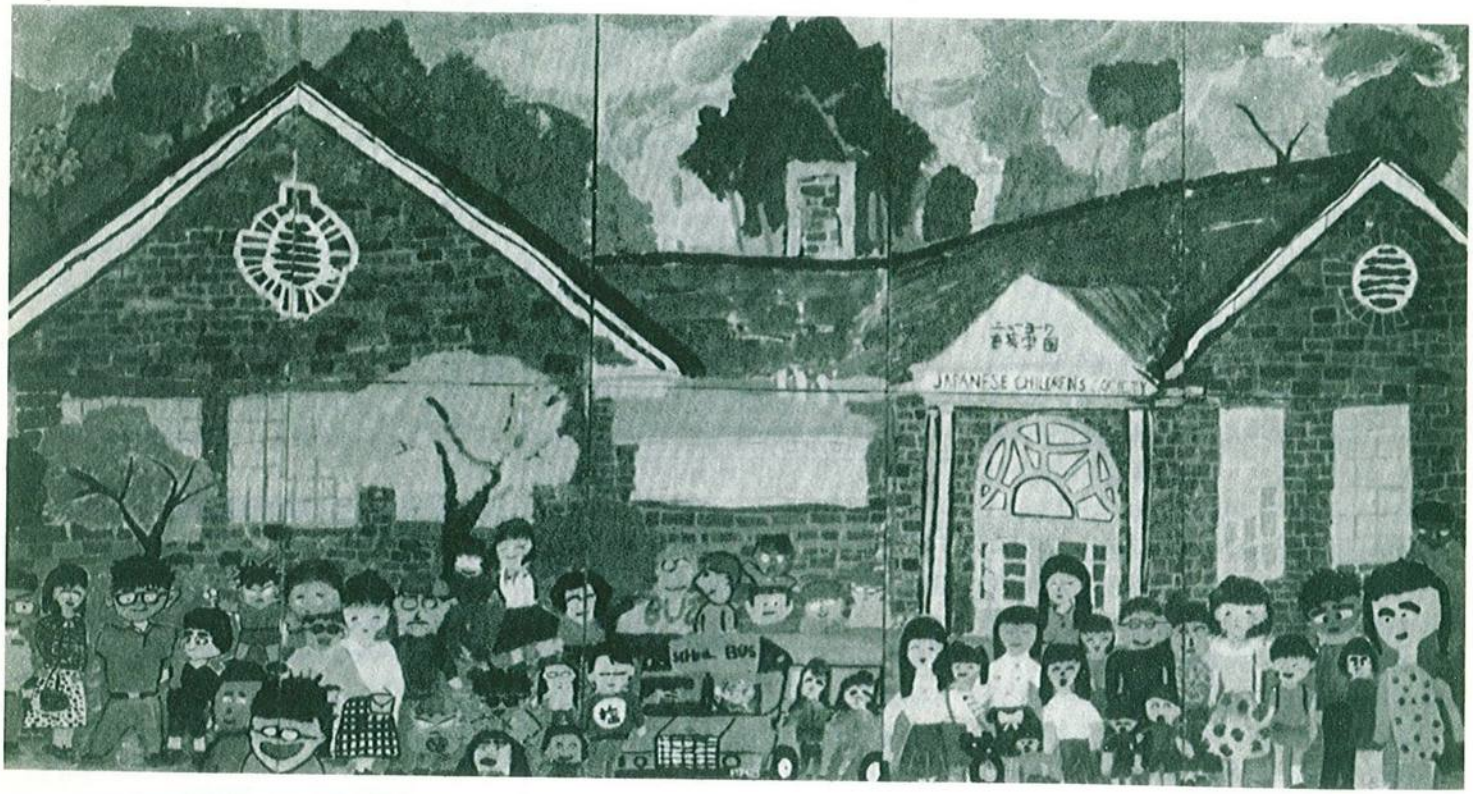
Friendship

VOL. 1 NO.1 WINTER 1994

$2.00

ニューヨーク育英学園機関誌

“フレンドシップ” 創刊号　発刊！



Japanese Children's Society, Inc.
8 West Bayview Ave.
Englewood Cliffs, NJ 07632

BULK RATE
U.S.POSTAGE
PAID
ENGLEWOOD, NJ
PERMIT No. 242

巻頭言



藤松忠夫

日本に住む外国人の数がようやく人口の1パーセントを超えたという。それにしても人口の99パーセントは日本人という単一民族である。その点、ニューヨークにはナポリの人口に匹敵するイタリア人、サンホワンの人口より多いプエルトリコ人、ベルリンの人口と同じ位のドイツ人など世界中から集まってきた、さまざまな人々が住み、一種の小宇宙（ミクロコスモ）を構成している。このごろは、アジア系の人も、急速に増えている。しかも、おもしろいのは、各民族がそれぞれの特色を生かし、しっかりアイデンティティーを持ちつづくけながら共存しているというところだ。

ニューヨークで生活するということは、日本では決して体験できない国際性を身につけることができると同時に、日本にいる間は考えてもみなかった“自分が日本人である”という事実を、否応なしに自覚せざるを得なくなる——ということである。

日本語を小さいうちからしっかり勉強し、日本人としてのアイデンティティーを確かに持ち、同時に他の民族とも自由につき合える国際性を持つことは、とりもなおさず21世紀に通用する真の国際人になることを意味している。

21世紀には日本人の何割かは外国人、という状態になるかもしれないが、そうなったとしてもニューヨーク育英学園の卒業生なら、決してあわてることもなく、ごく自然にやっていけると思うのである。

（JAL International Service Inc. 会長）

Japanese Children's Society, Inc.
Board of Trustees

相談役　寺澤芳男
（参議院議員、元MIGA長官）
相談役　島本源徳
（建築家、元ＮＹ日系人会会長）

名誉理事長　清水靖子チェンバレン
（医学博士）
理事長　岡本　徹
（ニューヨーク育英学園園長）
理　事　大橋　渉
（Ohashi Institute 校長）
理　事　佐藤　登
（Azuma Trading Co.会長、元ＮＹ日系人会会長）
理　事　Ms. Pat Kinney
（Fort Lee市市長顧問）
理　事　藤松忠夫
（JAL International Service Inc. 会長）
理　事　上妻雅浩
（ニューヨーク育英学園事務長）

Japanese Children's Society, Inc.
Advisory Members

広瀬輝夫　横山克美
江田治三　カニングハム久子
苅谷ジーン　Raith 史
咲間愼子　多志賀明
山田行夫　斉藤英子
木曽利夫　飯田裕子
清水　武　井上　巌
好田忠男　水野修孝
東畑朝子　岩橋英遠
宮本政於　古本　武
辻本栄子　関口　博
リンゼイ芥川笑子

もくじ

巻頭言…… 2
日本学校 MADE IN USA…… 3
海外での子育て…… 4
同窓会日本支部よりご案内…… 5
学園日記…… 6
子供の広場…… 8
ONE DAY TRIP …… 9
よくある困った話…… 10
ニューヨーク育英学園
放課後プログラムの紹介…… 11
いろいろお世話になりました…… 12
学級園から大宇宙へ…… 13
料理コーナー…… 13
報道される「ＮＹ育英学園」93…… 14
ＮＢＡバスケットボールを
楽しく観る方法…… 15
ミドリさんＮＹ育英学園訪れ
コンサート…… 16
フレンドシップ・ファンドへの
ご協力のお願い…… 17
DONORS…… 20

表紙絵
「ニューヨーク育英学園の午後３時」
1992年度小学部卒業制作

PUBLISHER
Japanese Children's Society, Inc.
8 West Bayview Ave.
Englewood Cliffs, NJ 07632
Phone:(201)945-5151
Fax:(201)944-3680

EDITOR IN CHIEF
Yoshihiro Koyama
STAFF
Tetsuo Fukuyama
Tetsuya Hashikura
Hiromi Komura
Miho Shinya
Hirofumi Sunagawa
Naomi Yamanashi
ADVERTISING SALES
Tomoko Tahara

日本学校 MADE IN USA



ニューヨーク育英学園園長　岡本　徹

『ジャパニーズ・チルドレンズ・ソサエティー』—私がこの組織に携わって13年が過ぎた。この組織は私の30代から40代にかけての人生そのものである。それこそ寝ても覚めても子供達とのかかわりや組織の運営で頭がいっぱいの毎日であった。最初は「日本語を話す幼児のためのプレイグループ・よいこの幼稚園」からスタートした当園。小学校用のアフタースクールが始まったところで、「よい子の学園」となった。1981年のことである。当初は数名の園児と、先生は私１人という組織だったが、13年目の昨年には幼小一貫教育も完成し、200名前後の児童園児と25名の先生の集団にまで成長した。名前も、全日制日本学校「ニューヨーク育英学園」に改めた。

海外で学校を作る方法を教えてくれる所はどこにもない。これはまさに手探りの作業であった。州の法律の下に日本式の教育をするということは、アメリカの文化と日本の文化の板挟みになることが多い。東西文化の常識や考え方の違いが学校を運営していくにあたって問題になることがよくある。それらを解決してくれるマニュアルなど無いので、そのときはスタッフが頭を寄せ合い、知恵を出し合うことになる。

日常学校生活でいえば、「ウォッチング」の問題などがその例だ。日本では休み時間などは、子供が自由に遊べる時間である。先生の目、大人の目を気にせずに行動でき、自分たちの世界を作ることができる。しかし、アメリカで学校内に子供が一人でいることは許されない。もし、子供達のいるグランドに大人のウォッチング係の人がいなかったり、教室に残っている子がいるのに先生がいなかったりすると法律違反となり、バイオレーションをもらう事になる。そして、監督不充分のところで事故が起きると、子供の親から訴えられるということはアメリカではよくある事である。当園でも郷に入れば郷に従えで、小学部の中休み、昼休みには先生や事務職員が交代でウォッチングに出て、校庭や校内に目を光らすわけである。

他の例を挙げてみよう。日本人の親や先生達は掃除指導をしたり、手を洗ったらハンカチで拭くことをさせたい。しかし、州の保険局では、掃除は掃除人がするもので、洗った手は紙タオルで拭き使ったあとは捨ててしまうのが衛生的と考えるのである。そのような考えであるから、教室に雑巾がぶら下がっていると即座に警告を受けるわけである。

幼児部の先生の配置でも、日本では30人以上の園児に一人の先生でも問題ないが、こちらでは10人（三才児）、15人（四才児、五才児）に一人の先生を基準としている。49％のフレキシビリティーはあるが、園側としては相当きつい足枷をはめられることになる。

アメリカ国籍を持たない先生達は就労するためのビザが必要となる。アシスタントの先生であってもＨビザを取るためには四年制の大学を出ていなくてはスペシャリストとして労働許可が取れない。そして、このＨビザの取得も以前のように早くは出なくなったことも頭の痛い問題である。

また、幼稚園の保育室の広さからくる定員でも締めつけられる。ニュージャージーの法律では子供一人に対し35フィート四方の広さが必要で、例えば日本の幼稚園で普通三十数名は入っているような保育室であっても20名程しか入ることはできない。その様な条件に地元の幼稚園のオーナーでさえも経営をギブアップする者も出てくる訳である。

“ファンド・レイジング”—アメリカで良く聞く言葉である。寄付金集め、基金造りということになるが、日本国内ではあまり馴染みのない言葉である。現地の公立校は一人の子供に対して年間一万ドル前後の予算を組んでいる。地元住民の税金が主な財源である。しかし、それだけの予算に対して授業料を設定できる私立校はそうざらにはない。従って、予算確保のため、バザーやファンド・レイジングが盛んになる所以である。

近隣の私立幼稚園で、我々も驚くほど高い保育料をとる所でさえも、聞けば年間予算の20～30％はファンド・レイジングをして賄っているとの説明である。習慣文化の違いとはいえ、日米の差をここでも垣間見た気がする。

当学園は大波小波を乗り越えて今日まで至った。そして、その13年間の歴史の中には忘れてはならない二人の大きな貢献者があったことを記しておきたい。

一人は学園の土台を作ってくださった故丹羽美代子初代園長。二人目は学園の行き先がなくなって困っていた四年前、現在の本部園舎、イングルウッドクリフスの園舎を買って提供してくださった田中育英会理事長の田中健児先生。このお二人を抜きにしてはこの学園は存続しなかったわけである。

そのほかにも数多くの人々の支援により成り立ち、これまで800余人の園児が巣立っていった「ニューヨーク育英学園」、これからも数多くの子供達の精神的拠り所として、スタッフ一同この城を守っていく覚悟である。皆様の変わらぬ温かいご協力をお願い致したい次第である。

海外での子育て

——幼児の「遊び」を見直して——

バーンズ　静子



この頃、現地校の教室でよく目につく気になる日本人の子どもたちがいる。とくに低学年などで目立つのだが、授業中でも勝手にふらふら歩き回ったり、関係のないおもちゃを出してきて遊んでいたり、順番が待てなかったり、教師が話してる最中でもおかまいなしに大声でおしゃべりしたりとか、いわば集団生活の基本的態度が育っていないように思われる子どもたちだ。その上この頃は、そういう行動を注意する教師に対して、悪びれもせず口応えする強者も出てきている。こういう社会性の稚さや不適切さには、情緒の発育のほか、家庭環境や養育のされ方が影響している部分が大きいものの、この地にあっては、さらに負荷される要素があるように思う。

というのも、こういう子どもたちの中には滞米年数も長く、おむつをしていたような小さい頃からナーサリーに通っていた子も多いのに、教師の英語がはっきりとわかっていない様子なのである。しかも当人と話してみると、自分が「はっきりと理解できていない」ことに気づいていないことがある。物事が漠然としかわからない状態に長くいて、また、わかろうとする努力すらもうやめてしまったこの子たちは、わからないときは自分の好きなようにして帳尻をあわせてきたのだろう。その背景には、2才から4才という急激に言語が発達する時期に異言語の中に放り込まれ、大なり小なり言語発達的にも心理的にも混乱をきたしたことや、注意されていることが何かわからなかたり、「言葉がわからないから」という理由でタイムリーに注意されなかったりといったような子どもの側から見ても一貫性を欠いた応対の中で「行動の基準」とでも言うべきものが獲得しきれなかったということも十分に考えられる。「なんだかわからないけど叱られる経験」も多かった事だろう。そして、理不尽な扱いを受けたという思いだけが残る。

こういったいきさつを親が把握し共鳴してあげられないことが、情緒的な安定や対人関係・学習意欲のバランスを崩す結果を招くことは往々にしてある。また、この子たちが幼児期に他の子どもと体を使って遊ぶ体験が十分にされていれば、たとえ同じ境遇にあってももっと前向きな態度で集団に適応できていたに違いない。遊びこみを通じて、季節を体で感じとり、生き物を慈しむ心を培い、感情の幅を覚え、発想の柔軟さを育む。これらは人として機能するための基盤で在りながら、「それもあればいい」というようにプラスアルファとして取り扱われていることがある。しかし、基盤が不安定のままで上に積み重ねられた「学習」や「適応」に破綻が生じた時、振り返ってはじめてその重要な部分の欠落に気づくのでは遅いのではないか。海外で子育てをする時には、頭を悩ませなければならないことがらが数多くあるため視点が目先のことに向かいがちだが、特に幼児を育てていく上では、子どもが子どもらしく他の子どもと思いっ切り遊べる環境づくりに細心の注意を望みたい。

プロフィール

バーンズ 亀山 静子

明治学院大学英文科卒業後、ロングアイランド大学大学院にて特殊教育修士号、CUNYクイーンズカレッジ大学院にてスクールサイコロジー修士号取得。ニューヨーク州特殊教育教師免許およびスクールサイコロジスト免許を持つ。現在、各学校区教育委員会を通じ、現地校にいる日本人・生徒の教育相談、診断査定を行っている。

KINTETSU INTERNATIONAL
YOUR TRAVEL PARTNER
「快適な旅」をお約束します。
BUSINESS TRIP
安心で確実なサービスの
呼び寄せ・里帰り
JAPAN DESK
NY1日観光から
世界各地へのパッケージツアー
アメリカン ホリデイ ツアー
近鉄インターナショナル
ニューヨーク支店
212-632-3700
1270 Ave. of the Americas
Suite 1813
New York, NY 10020
ニュージャージー支店
201-288-4439
500 Route 17
Hasbrouck Heights,
NJ 07604

ニューヨーク育英学園

同窓会日本支部よりご案内

Friendship 創刊号おめでとうございます。日本に帰国してもNY育英学園やニューヨーク、ニュージャージーの生活レベルの話題を知る機会ができましてとても嬉しく存じております。

同窓会日本支部は帰国した学園出身者を対象に1989年3月設立された会です。現在約130家族（160名）のメンバーで年1～2回集まり会員相互の親睦をはかっております。ご帰国中のなつかしい先生方とお会いするチャンスもあります。任意加入ですので入会ご希望の方は帰国後下記へご連絡下さいませ。又、一時帰国の方も同窓会の日程などお知らせできますのでどうぞお電話下さいませ。

ダイナミックな落葉やハロウィーンの秋を想い出しながら、NY育英学園の皆様のご健康とご活躍をお祈りいたしております。

同窓会日本支部代表　中嶋喜久子

住所
〒112　東京都[redacted]
NY育英学園日本支部
☎　03[redacted]
年会費　1000円／家族
（名簿代、通信費等）



同窓会に出席して

副事務長　小山義博

今年の夏は冷夏といわれいつものうだるような暑さを覚悟していた私としてはいささか拍子抜けの感がありました。一度出された梅雨明け宣言が撤回され連日雨の降り続く異常気象で傘が随分と売れたということです。持参した夏物の服は殆ど出番がなく、長袖のシャツなどを現地調達するはめになってしまいました。今年の夏の同窓会はそんな中8月4日、渋谷駅に近い青山通りにある『こどもの城』にて行われました。当日もどんよりとした曇り空のうえ肌寒く、真夏というのに長袖の上着が大げさでないような天候でした。夏休み中で出かけている人が多いということでしたが数年ぶりに会う子供から、つい先日帰国した子供達まで、たくさんの同窓生と父母の方々が出席しました。昔話や近況報告など話もはずみしばし楽しい一時を過ごしました。

学園関係者は現在日本にお住まいの咲間槙子先生、村田明美先生、新婚ほやほやの渡邊麻里（旧姓高井）先生に加え一時帰国中の田原友子先生、小山仁美先生、小村裕美先生と私が出席しました。

ThreeBond
技術と友情で世界をむすぶ
株式会社スリーボンド
USAネットワーク
ニューヨーク
Three Bond Inter'l, Inc.
150 East 52nd Street.
New York, NY 10022
☎ 212-750-0611
オハイオ
Three Bond USA, Inc.
6184 Shumacher Dr.
West Chester,OH 45069
☎ 513-779-7300
カリフォルニア
Three Bond of America,Inc.
20815 Higgins Court.
Torrance, CA 90501
☎ 310-320-3342

学園日記

―― 1学期の主な活動 ――

4月5日　小学部入学式

入学式のために桜の木を作りました。その花びら600枚は本学園第1回卒業生たちの手によって作られました。一つ一つの花びらには作った子供の名前が書かれており、入学式の際には花びらがハラハラと舞い降りるという趣向など、成長の節目を飾る演出もありました。



4月7日　幼児部入園式

元気な新しい仲間20名が晴れの入園式にのぞみました。ピカピカの名札を担任の先生につけてもらった新入園児達はみんな嬉しそう。新しい生活への第一歩を踏み出しました。



4月21日　お花見遠足

三千本の桜が咲くプランチブルック公園へ行きました。エッグハントをしたり、ボール運動をしたりして一日を楽しみました。



5月1日　こどもの日のお祭り

マンハッタンにあるワールドトレードセンターにおいてアメリカに日本のこどもの日を紹介しようという主旨でボーイオーソリティーが主催したお祭りに参加しました。児童達は飛び入りのアメリカ人も混じえて一緒に仲良く本物のおみこしをかつぎました。

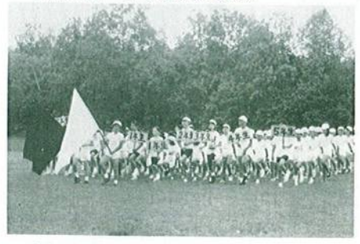


5月7日　幼児部親子遠足

入園・進級して初めての遠足は親子でバンサウンパークへ行きました。何と言っても楽しかったのは風船のバレーボールや玉いれ、綱引きなどのゲームとお弁当だったようです。親子遠足ならではの素敵な光景が見られました。



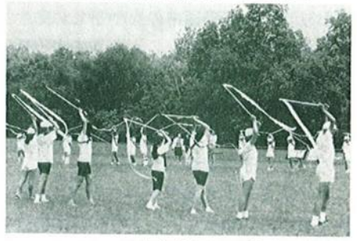
6月6日　小学部大運動会



今年はイングルウッドの本格的なトラックのあるスタジアムにて行われました。6年生の紅白の応援団長を先頭に行進曲にあわせ堂々の行進のあと開会式が行われ、3年生代表の元気な選手宣誓により、熱戦の火ぶたがきっておとされました。



学園名物となった児童製作の入退場門は昨年よりさらに大掛かりなものとなりました。入場門はジョージ・ワシントン・ブリッジとニューヨーク、退場門は頑張る子供達と万国旗が描かれています。



ニューヨーク育英学園では体育の授業に剣道があります。運動会では日頃の成果を披露しました。「上段の構え！」と剣道の加藤先生（全米チャンピオン）が号令し太鼓を打ちならしての演技にひときわ大きな拍手がありました。



学園名物、全校児童によるチーム対抗リレーは1年生から始まり、6年生まで全員が参加します。今年も最後まで息詰まるレースを展開してくれました。

校外学習　社会科見学二景

イングルウッドの消防署で署員から説明を受けました。始めは職員用普通服だったのですがあまり熱心に学習する児童に感心して重装備の消防服を着用して見せてくれたり、普段見学できないところまで見せてくれたり、大サービス。

加えて、ボヤ騒ぎのため実際に出動まであったりして、有意義な見学でした。



イングルウッドクリフスの警察署見学では熱心な見学態度に感激してくれたお巡りさんは、射撃訓練所も公開してくれました。この時の実弾発射のデモンストレーションには子供達もびっくり。

手錠を児童にかけてみせてくれたり、最後には牢獄に児童を閉じ込めたり、めったに経験できないことを体験し、教科書だけでは知ることのできない警察を見たのでした。

6月19日　幼児部父親参観日

6月の第3日曜日の父の日にあわせ毎年、父親参観を行っています。



当日は朝から汗ばむ晴天となり、「親子でストレッチ」からプログラムは始まりました。クライマックスは子供が鯉になりお父さん達が滝になるという「鯉の滝登り」です。子供がけがをしたら大変です。お父さん方は腕時計をはずし、手をしっかり組んで準備ＯＫ。子供のちょっぴりこわいけど面白いというなんとも言えない表情と5本の指をしっかり広げた緊張が感じられます。



グランドでお父さんとおもいっきり遊んでから、各クラスで歌を歌ったりプレゼントを手渡したりしました。

6月20日　親子対抗野球大会

本学園には4年生以上を対象にした野球部「J's」があり、週2回放課後練習を行っています。父の日の恒例となったこの試合も今年で第3回を迎えました。張り切る子供達に対し、まだまだ子供には負けられないというお父さん達。結果は情け容赦もなく攻めたお父さんチームの圧勝でした。



New Friend's Day

昨年と今年の2回にわたってロングフェロー校の子供達と交流会を行いました。

この日のねらいは「新しい友達を作ろう」ということでした。名札をつけ、パートナーをさがしたり、日本紹介の遊びを一緒にしたり、お箸を使ってラーメンを食べたり、日本式授業を体験したりして楽しい一時を過ごしました。



New Friend's Dayのお返しに一緒にピクニックをしませんかと学園の子供達が招待されました。ロングフェロースクール近くの公園で遊んだりお弁当を食べたりしました。お弁当の中身はお稲荷さん、お寿司、お赤飯、お団子などアメリカの子供達にとっては珍しいものばかり。お母さん達の陰の力も日米交流に一役買いました。



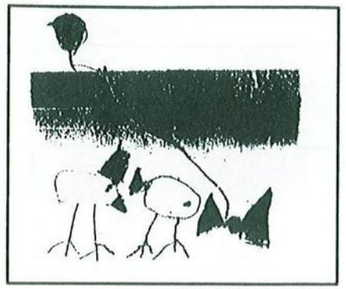
6月30日　仮卒業式

本学園の卒業式は日本と同じ3月に行っていますが、6年生13名のうち4名がこの夏帰国することになりました。帰国児童の「この学園を卒業したかった」という思いがこの日の仮卒業式という形で実現したのです。



卒業証書には「一人一人の個性を伸ばす」という本学園の方針に従い一人一人異なる文章が書かれています。12歳の記念すべき年令の時のその子の特長と良い点、そして出来事やエピソード、担任のその子に対する願いが一人一人に呼びかけるように書かれており、証書授与の際に担任より朗読されました。

子供の広場



井桁諒子（３歳児）

１年　ミニミニ日記から

ぼくは、5ふんやすみに、といれにいくとき、とんぼががっこうのなかにはいっていたのでおいかけてみたら、といれにはいっていったのでちょうどよかったです。　まえだけんた

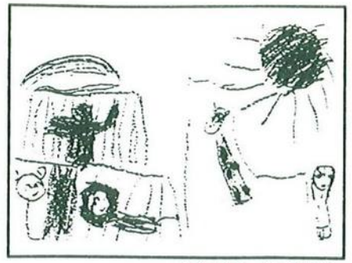
わたしは、きょう、こくごのじかんに、小さなねこの、おんどくこんてすとをしました。だれがいちばんうまかったか、わたしにもよくわかりません。みんなじょうずだとおもいました。　ごとうみき

ぼくはくるまのなかからうろこぐもをみました。そして、いえにかえってなきながらべんきょうをしました。そしておふろにはいってあせをながしました。　あべはやと

きょうは、はじめてドッチボールのとき、ひとりになってしまいました。わたしはどうしようかとおもいました。そして、がんばるきもちがでてきて、あてられました。　なかだなおこ



山本和也（５歳児）



小泉響子（４歳児）

かんきょうはかいについて

4年　斎藤勇紀

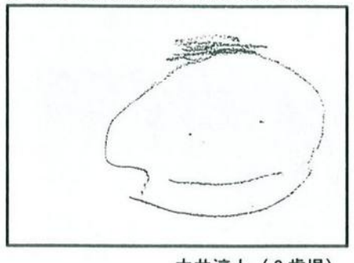
ぼくは、かんきょうはかいは、とてもおそろしい事だと思います。

かんきょうはかいには色々ありますが、例えば、紙や木のテーブルみたいなものをつくるために木を切りたおしたり、冷ぼうやスプレーみたいな物から出てくる悪い物が、オゾンそうをはかいしたり。

また、人間が何かを作ろうとして工場から出たけむりのせいでさんせい雨がふってきたり。

また、人間が色々な所にゴミをすてるので、ゴミ問題などが起きたりする。

かんきょうはかいは、みんな人間が起こしているんだ。みんな地球にやさしくなればいいのに、みんな地球ほごだんたいやリサイクルの人みたいに地球にやさしくなればいいのに。そしてぼくも。



中井淳大（３歳児）



水野絵美（４歳児）

「森は呼んでいる」の感想文

5年　及川祥平

これは、岩手県の室根村の山中に住んでいる北沢森人という養魚場をやっている農家の子どもの話です。海のそばにあるカキの養殖場の人たちと協力して自然を守ろうとしました。

この本の中で一番印象に残っている場面は、台風が来て養殖場がめちゃくちゃになるところです。ぼくは、この後この一家は東京辺りに移住するだろうと思っていたら、若い大工さんたちのカをかりてどろをほったりして養殖場を回復してしまったのです。この部分を読んだとき、ぼくは心の底で、「なせばなる」という言葉を思い浮かべていました。この本には、こんなことがあってもがんばればきっといいことがあるということが書いてあると思ったのです。それに、自然を大切にということも。

ぼくは、この本を読んでいるうちに、岩手県の北上山脈に登ってみたいと思いました。ちょうど、ぼくが住んでいた北海道ともそう遠くはないので、ぜひ岩手県へ行ってみたいです。それに、関係ないかもしれませんが、及川家は岩手県のでなんです。

この本に出てくる人たちは、すばらしい考えを持っていると思います。海の漁師さんと山の養殖場の人が協力して川や森を守っているなんて、とても現実ではできないでしょう。こういう場面では、この本がとくにぼくは大好きです。

２年の俳句

ミニトマト　　蔵並ゆい子
ちっちゃなかおで
わらってる

パトカーだ　　石井翔太
どうしたんだろう。
こわいなあ。

ふゆの日は、　　神徳麻結子
こたつとみかん
これでいい

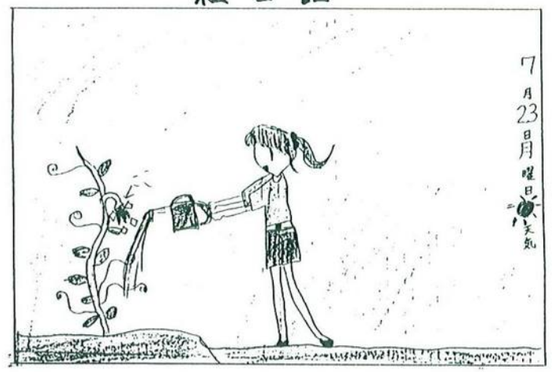
大好きなぼくの学校

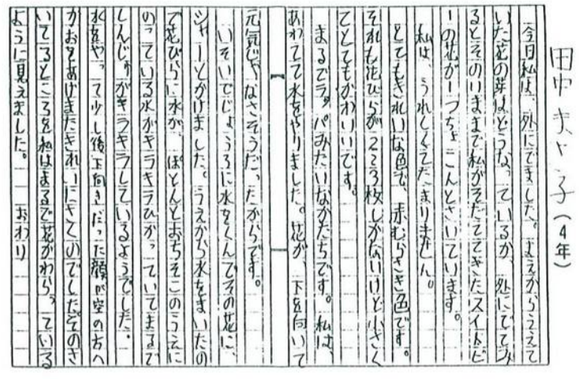
3年　熊丸和宏

ぼくは、この学校にきて一番おもしろかったのは、友だちと、あそぶことです。　ぼくは、一年のときに、大こうちくんとだけ友だちになりました。今は、友だちがいっぱいいるけど、なんで一年のときは、友だちができなかったのかふしぎです。そのころは、なんにもしてなかったけど、今は、男女でおいかけっこなどをしたりして、とてもおもしろいです。もっと、大きくなると、もっと、いっぱーい友だちができるんじゃないかと思います。ぼくは、育英学園にきてよかったと思います。



絵日記





今日私は、外にでてきました。まえからうえていた花の芽がとうとう、でているが、外にでてびっくりするとそのりまえに私がうたてできたスイセンの花が一つちゃこんとさいています。
私は、うれしくてたまりません。
とてもきれいな色で、赤むらさき色です。
それも花びらが2223枚しかないけどとてもかわいいです。
まるでラッパみたいなかたちです。私は、あわてて水をやりました。花が、下を向いて元気でなさそうだったからです。
いそいでじょうろに水をくんでその花に、シャーとかけました。うえから水をまいたのでびっくりしたのでしたそのきのっている水がキラキラしているようでした。
しんじつがキラキラしているようでした。
私は、やっぱりこの花がだいすきです。
かおをよせたきれいにさいてくれた神様に空のかなたへ
いてうとこころをねはまるで花がわらっているように見えました。
おわり

田中まどか（4年）



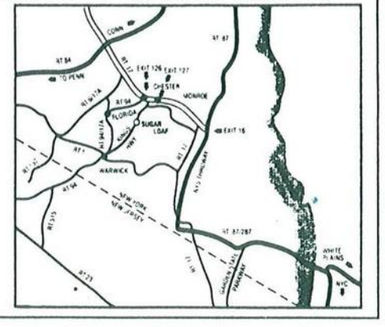
武盛景子（6年）

ONE DAY TRIP

SUGARLOAF

Rt17(NORTH-WEST)の山間を50分ほど走り、EX 127から降りること15分。道の両側およそ200メートルほどの長さにアンティークな店が軒を並べた小さな街に出会う。田舎街の不思議な魅力に誘われ車から降りて街を歩くと猫や犬のもてなしから、ステンドグラスや壁飾り、アクセサリー、レザー、アートギャラリー等、可愛らしい動物や店が訪れる客を楽しませ、心を和ませている。いずれの店も品物のほとんどが手作りであり、手作りならではの味わいのある、温かみを感じさせるものばかりである。これらの素敵な店の中でも特に私が気に入ったものは、安いものは4ドルから高いもので1300ドルもする値段がつき幻想的な世界を映し出している「万華鏡」である。私が知っている万華鏡は丸い筒の中に色のついた石や紙が入っているものであるが、ここにあるものはそれだけではない…。どの様なものなのかは皆様の訪れてからのお楽しみということにする。

子猫がじゃれあい、犬が昼寝をしているほのぼのとしたこの街を一度訪れてはいかがであろうか？　都会の忙しい生活で忘れていた「何か」が見つかることを期待して…。（新谷信明：５歳児担任）



よくある困った話

中嶋　喜久子

消防団への寄付

10年以上前の話、ニュージャージーに引っ越して間もない頃、夕刻の我が家に訪問者があった。暗闇に3人の男達が立っているのを発見し、私はうっかりドアを開けてしまったことを後悔した。程なくそれは町の消防団の人達がクリスマスシーズンの寄付集めに回っているのだとわかったが、今度はいったいいくら寄付したらいいのか見当がつかない。とりあえずお財布にあった＄20札を渡しおひきとりねがった。＄1は250円の時代だったから5000円位である。強盗でなくてよかったとホッとしながらもだんだん不安になってきた。＄20でよかったのだろうか。そういえば領収証をもらわなかったし、本当に消防団員だったのか確かめもしなかった。こんな時はFire Department宛に小切手をきればよいこと。Return CheckはTax Deductibleになることなど知ったのはずっと後になってからのことだ。ふさわしい金額については未だにわからない。その町はそんなに裕福な町ではなかったが、現在多くの日本人が住んでいる高級住宅街ではいくら位が相場なのだろうか。

創立記念特別寄付

上流階級の子弟が通う幼稚園での話。コンピューターを幼児教育にも取り入れ、授業料も高かったが、教育費全額負担の駐在員の子供も数人通っていた。アイビーリーグにつながっているというその歴史ある学校は大きな創立記念行事の年を迎えた。当然のように保護者に対し特別寄付の依頼があり、日本人父母達は相談の上、各々＄3000の寄付をしたという。当時平均的駐在員の家賃は＄1000前後だったから若い駐在員家族にとってはかなりの負担だったはずだ。しかし、その学校では＄5000以上が常識だったのである。音楽室や理科室の寄贈まであった中で、日本人の寄付はその小額ゆえに目立ってしまったという。

バースデー　プレゼント

日本でもアメリカでもお友達をよんでする幼児のバースデーパーティーはとてもさかんに行われている。私の経験だけで断定はできないが、日本人同志のパーティーとアメリカ人達の場合とではプレゼントの内容との金額にはあきらかな違いがあった。アメリカ人達のプレゼントは女の子だけだったせいかほとんどが衣類、それも＄10以上はするものだった。日本人はおもちゃや文房具が普通だし、幼児に2000円以上のプレゼントを持たせることはまずないと思う。もっとも最近の円高で金額的には歩み寄ってきた感はあるが、それにしても衣類が圧倒的に多かったのはなぜだろうか。

こんな時、皆さんは気軽に相談できる事情通のお友達をお持ちでしょうか。交際費というのは国内でも、いつの世でもむずかしいものですが、外国においてはなおさらです。体験談の本も多く出ていますが、年収、子供の性別、年令、居住地区、又東部と西部の違い等々あってなかなかぴったりの答えを見つけるのはむずかしいと思います。本など調べている余裕がない時、赴任したばかりで知り合いもいない時、簡単に電話でふさわしい金額や方法を教えてくれる所があったらどんなに助かることでしょう。外国においても良識ある市民として日本人の評判を落とすことなく生活したいと思っている人の為に、どなたか手を（知恵を）貸してほしいものです。

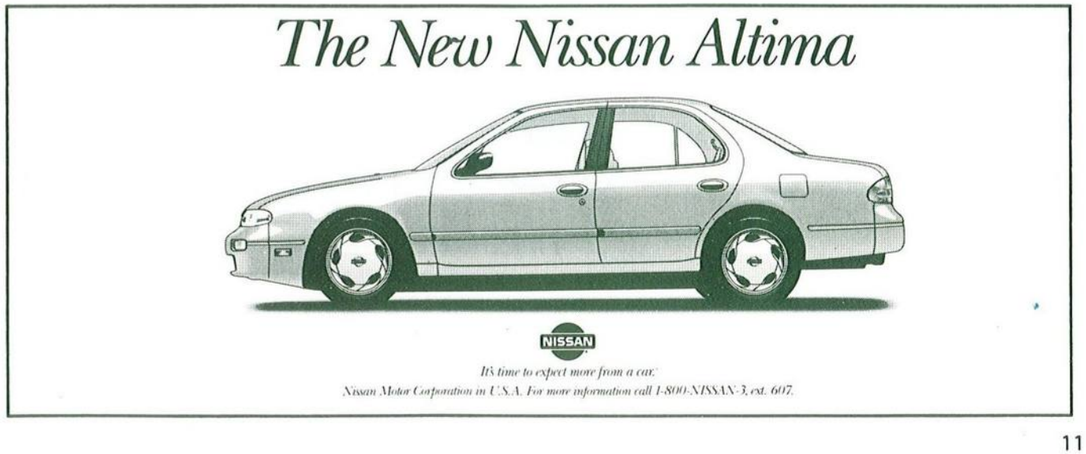
（同窓会日本支部代表）



ＮＹ育英学園

放課後及びその他のプログラム

名称	対象	定員	日時	場所	教師	費用	内容その他
サタデースクール幼児部	４歳児 ５歳児	１クラス ２０名	土曜日 ９：２０〜１：２０	第１園舎	石崎 上妻 ﾌﾞﾗｯﾄﾞﾌｫｰﾄﾞ	一学期　＄３００ 登録料　＄２５ 入園料　＄１５０ 材料費　＄５０ 設備費　＄２０	言語指導、創作、運動遊具も使っての総合プログラム
サタデースクール小学部	小学生 １年生 ２年生	学年 １クラス ２０名	土曜日 ９：２０〜２：３０	第１園舎	田原 砂川	一学期　＄３６０ 登録料　＄２５ 入園料　＄２００ 材料費　＄５０ 設備費　＄２０	国語、作文、算数生活科
母子グループ	２才〜３才の幼児とお母さん	各コース １５組	月曜コース 水曜コース １：４０〜２：４０	第２園舎	新谷（美） 神立	＄５０／４回	親子で楽しく遊びながら、工作、クッキング、体操などをします。
ベビーシッタールーム	ＮＹ育英学園幼児部園児		火曜日、木曜日 １：３０〜３：００	第２園舎	森下	１時間　＄５	
パメラ先生と英会話	大人	１０名	月曜日 １：００〜２：００	第１園舎	パメラ・グランブルズ	＄９６／８回	ビギナーから中級
J's（野球部）	ＮＹ育英学園児童 ４年生以上		火曜日 ３：３０〜５：３０ 金曜日 ３：００〜５：００	第１園舎 グランド	砂川 小山（義）	部費　＄３／月	小学部 クラブ活動
キッカーズ（サッカー）	ＮＹ育英学園園児 年中、年長児		水曜日	第１園舎 グランド	望月	無料	幼児部 クラブ活動



いろいろお世話になりました

前小学部父母会会長　　阿部智美

今日は10月１日、息子の入園式の日です。８月にアメリカに来てから２カ月近く、ウェイティングリストに載せてもらって、まだかまだかと指おり数えていたので、もううれしくてうれしくて、というにこにこ顔。本来なら日本にいる時、年中として１学期の間だけでも幼稚園に入れるはずだったのに都合でダメになり、幼稚園にあこがれている息子としては待ち遠しくて仕方がない入園式だったのです。

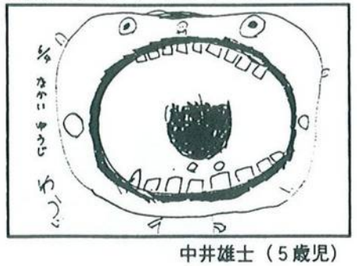


中川屋子（４歳児）

さて、着慣れないスーツを着せ、新しい靴をはかせて外へ出ると、驚いた隣りのセリーンに「何があるのか。」と聞かれました。私が「幼稚園の入園式だ。」と答えると更にびっくりして「日本人はそんなことをするのか。」と言うのです。その時、初めてアメリカなどでは入園の時にこんな式はしないのだと知りました。それは、もし現地のキンダーに入れていたら、果して親子ともこんなにリラックスして、ただワクワクとこの日を迎えることができただろうか、という思いにつながりました。

異国の地であるアメリカにおいて、日本人が日本の幼稚園に通えることのありがたさは測り知れないものがあります。例えば、第一に、日本語を確立していく大事な時期に、日本語にずっと接することができ、それを伸ばしてもらえる、ということがあげられます。これは、日本人として成長するためには絶対必要なことであり、基礎をしっかり身につけないとあとから何をやっても十分に理解し、把握することは難しくなります。私も、もし息子が変な発音をしたり、語彙がとても少なかったりと、日本語が不十分であれば随分不安になっていたことでしょう。

第二に、親子とも精神的にゆったりできることです。英語を十分理解していない私にとって、子どもの様子を細かく伝えたり、困ったことやしてほしいことをお願いしたりと、とかく連絡の多い時期、もしこれを全て英語でしなければならないのであれば、本当に辛い毎日であったと思います。その上むこうからの連絡も全て英語なのですから、もう親も必死で勉強せざるを得ず、ゆとりある生活には程遠かったことでしょう。思ったことを何でも言えない、言ってもわかってもらえない、という環境が子供の心に及ぼす悪影響は多大なものがあると思うのです。



中井雄士（５歳児）

何はともあれ、わが息子はこの日から毎日毎日幼稚園に通いました。幸い、二人の先生方にも恵まれ、子供の目線までしゃがんで接して下さる態度にとても安心感を覚えました。子供たちも先生をちゃん付けで呼ぶなど、慣れ親しんだのです。何度か熱も出しましたが絶対行くと言ってきかず、とうとう一日も休まず３月までできてしまいました。楽しい楽しい年中さんだったそうです。



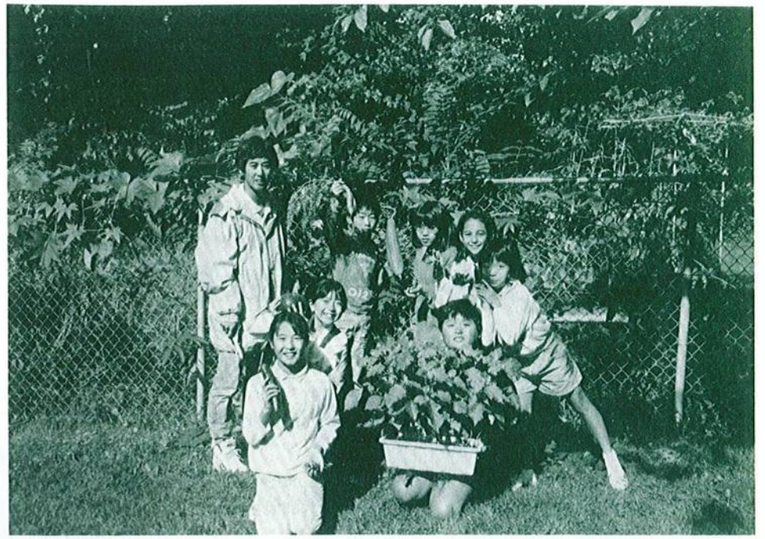
阿部逸人（１年）

そして年長では、新しい友だちが混じって集団生活の難しさもわかるようになり、友だちとの接し方も試行錯誤のあと、徐々につかんでいったようです。このような時期、子供の様子をていねいに書いてお知らせ下さったことには今でも感謝しています。「この子は幼稚園が大好きだから。」と自分の忙しさにかまけてばかりいたらどうなっていたか、「明るい子を暗くしないでよかった。やはり、育英にいれて正解だった。」とつくづく思ったのです。

息子は今１年生ですが、幼稚園で培ったいろいろなことを基盤に、元気いっぱい学校生活をエンジョイしています。ことばに対する心配も先生方に対する不安もなく、親子共々のびのびと毎日を送らせて頂いています。もっとも、息子は宿題というお荷物につぶれかけることもありますが‥‥ね♡。

学級園から大宇宙へ

端倉哲也



ある日職員室で丸まると太った「きゅうり」と「なすび」を見つけた。見た目にはつやはないのだが実はこれが完全有機農法により取れた自給自足の本物の野菜である。これはこの学園の学級園で取れる。夏休み前、理科主任の先生を中心にせっせと種をまき、１カ月半の長い夏休み終了後なんとすごい学級園になったことか。毎日暑い夏に水をかけたのも、理科の授業での子供達の驚く顔を見たいがためである。トマト、ひまわり、なすび、ヘチマ、おしろい花、かぼちゃ、etc…etc.…

子供達を連れて一歩外へ出るとそこは森林浴でもできる程の重厚な緑の匂いが体を包む。ひまわり観察に行き自分の身長の２倍以上もの力強い花を見て子供達は自然の大きさを学ぶ。ちょうちょを見つけ、コオロギを探し、バッタをつかまえ‥‥。ひまわりから始まった授業は子供達の計り知れぬ能力により、教師の計画を大幅に変えていくのだが、それはとても創造的である。生き生きとした子供達の目、発見の喜びに触れていると自分自身も心が洗われ、昔の小さい時の自分を思い出す。川で魚を取り、山で蝉を追いかけトンボの目の前で指を回しすすきをたくさん取って帰った夕方。夢を持ち、それがかなうと信じていた純粋な頃の気持がよみがえる。そんなとき「教師をしていて良かった…」と心の底より思う。

育英学園には心がある。お父さんやお母さん達が育った昔の学校時代のあの豊で美しい心が確かにある。教室から学級園への道のりは、僕はとても好きである。なぜならそのとき心は学級園にとどまらず、遠く宇宙にまでもかけのぼり、緑豊で、満々と水をたたえる青い地球を見おろし大自然、そして楽しかった子供時代へとタイムスリップできるからである。

あなたも、育英学園の学級園、のぞいてみませんか。　　（３年１組担任）



加藤謙介（4年）

料　理

赤鯛の地中海姿焼き

自然の鯛を調理したときの姿と味は、養殖のものとは違い、格別なものです。アメリカでは、日本に比べ大変安く自然の鯛を手に入れることができます。今日は、真っ赤な鯛で食卓をにぎわせてください。

材料

赤鯛	大１尾	ブラックペッパー	少々
にんにく	６かけ	コーンオイル	適量
パセリ	１たば		
DELL	１たば		
塩	小匙１		
レモン	２こ		

1. にんにく、パセリ、DELL、塩、レモン１この中身、ブラックペッパーをブレンダーにかけます。
2. 赤鯛の内臓を取り、洗います。
3. 体の両側に３ケ所ずつななめに切り込みを入れます。そこへブレンダーにかけたものをはさみます。
4. 残り１このレモンを半月形のうすぎりにし、同じように切り込みにはさみます。
5. 刷毛でオイルを体にぬり、375℉のオーブンで１５分焼き、ひっくり返してオイルをぬり２０分焼きます。
6. 中まで火がとおったら出来上がりです。

（山梨尚美：１年担任）

報道される『ＮＹ育英学園』'93

３月と６月に行われたティーネックのロングフェロー校との交流会がいくつかの新聞に報道されました。
そのうち２つの記事を紹介します。

THE TEANECK
SUBURBANITE
Price 25¢ Teaneck ▼ Bogota June 30, 1993



Fun picnic

Students from the Longfellow School in Teaneck enjoyed a picnic with students from the Japanese Society School in Englewood Cliffs. See story on page 3.

Japanese, American students picnic together

By BEVERLY O'SHEA
Of The Suburbanite

TEANECK — A scavenger hunt, games, lunch, making friendship bracelets and playing together — all of these were featured as Longfellow School first and second graders picnicked with classes from the Japanese Children's Society School in Englewood Cliffs last week.

The picnic in sunny Ammann Park last week was hosted by Longfellow children who had visited the Japanese children in February. Hilary Almeida, who works at the Englewood Cliffs school and has a child in Longfellow, started arranging the exchange visits last year.

Even the list of scavenger hunt items was in both Japanese characters and in English as the children had to hunt for things like a blade of grass, a small rock and a pine cone.

As they ate lunch together, each American child with a Japanese "buddy," the Longfellow children had an opportunity to see how deftly the visitors handled their chop sticks while eating their sushi and other food.

When the American children were at the Japanese school, they learned how to do Origami and how to "slurp" noodles and a little bit of how to count in Japanese, Almeida said.



DON HORSEY

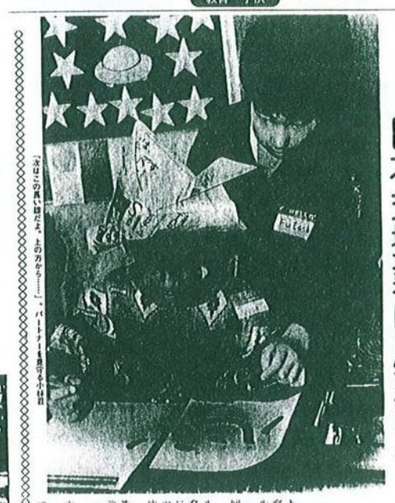
Aya Gotoda blows a BIG bubble at the picnic.

THE YOMIURI AMERICA

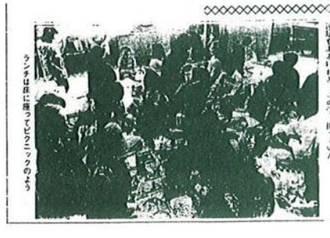
教育・子供 (12)

ルポ

子供たちの触れ合い
NY育英学園＝ロングフェロー校
日本式授業に戸惑いも









ＮＢＡバスケットボールを楽しく観る方法

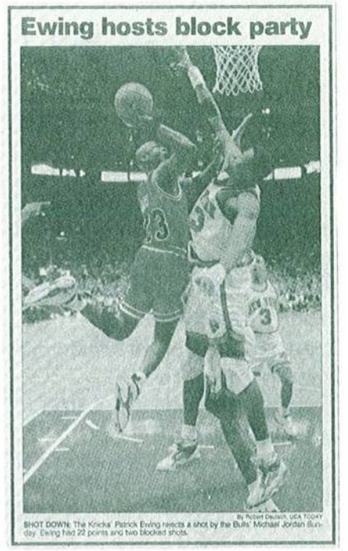
アメリカのプロスポーツの中で今一番熱くて興奮度抜群のスポーツは、何と言っても“ＮＢＡ”全米プロバスケットボールでしょう。去年のバルセロナ・オリンピックにあのドリームチームを送り込み、その華麗なプレーと他チームを全く寄せ付けない強さを世界中に見せつけてくれたあの選手達のいるＮＢＡです。ＮＢＡの試合を観に行くと、身長２ｍを超えるプレーヤー達がそのスピーディーなプレイ、ジャンプ力、力強いダンクシュート、そしてしなやかな体の動きで人々を魅了します。

バスケット会場に行って日本と一番違うのは、会場内では観衆の100％が地元チームを応援していることです。相手チームはまるで悪役の様な扱いを受け、選手紹介の時にブーイングをされたり、ファインプレーをしても拍手をされない程です。それに対して、地元チームのスタート選手の紹介などは、広い場内の全ての照明は消され、派手なレーザー光線、スクリーンビジョンとアナウンスにのって選手は迎えられます。そんな徹底した雰囲気の中での観戦は、まるで自分がプレーしているかのような興奮を与えてくれます。

ＮＢＡにはチームが２７チームあり、それが東西リーグに分けられています。各チームに選手は１２人ずつ（スタート選手は５人）、２軍はありません。シーズンはレギュラーシーズン（各チーム８２試合）が１１月から４月、プレーオフが６月中旬まで続きます。プレーオフは東西各リーグの上位それぞれ８チームずつがトーナメント戦を戦い、最後に東西のチャンピオン同士がチャンピオンシップをかけて戦います。

ＮＢＡ観戦を楽しむためには、まず選手やチーム、そしてルールを知ることから始まります。自分のごひいきチームや選手がいると、なお一層応援に熱が入って楽しめます。ちなみにＮＹ、ＮＪ地域にはNew York KnicksとNew Jersey Nets があります。New York は昨年シカゴに東リーグのプレイオフの決勝で負けはしたものの、レギュラーシーズンではリーグ優勝をしています。New York のスターは何と言ってもドリームチームメンバーのパトリック・ユーイング、コーチは昨年コーチ・オブ・ザ・イヤーに選ばれたパット・ラリーです。今年はリーグ制覇だけでなく是非チャンピオンに輝いて欲しいものです。

近年のシカゴの強さは、何と言っても今世紀最大のスーパースター、７年連続得点王のマイケル・ジョーダンの存在でしょう。残念ながら、彼は今年30才の若さで引退を決意していましたが、彼の華麗なボールさばき、バレリーナを彷彿させるしなやかな動き、人間離れした滞空時間、力強いダンクシュート、リーグいちのディフェンス力、どこから放っても入る正確なシュート、チームリーダーとしての統率力、そして他に類をみない勝利への執念が、世界中の大変多くのファンを魅了してきました。



SHOT DOWN: The Knicks' Patrick Ewing rejects a shot by the Bulls' Michael Jordan during Ewing had 22 points and two blocked shots.

他にももちろんたくさんの強豪チームやスーパースターがＮＢＡには目白押しですが、次の機会に紹介させていただきます。寒い冬、ちょっとテレビのスイッチをＮＢＡにあわせて、一緒に興奮を味わってみませんか。

（小村裕美：英語科教師）

OKAYA (U.S.A.) , INC.

NETWORK & STRATEGY

情報力、企画力、行動力、そして創造へ。

— HEAD OFFICE —
Parker Plaza, 400 Kelby Street, Fort Lee, NJ 07024
Phone: (201)224-6000 Fax: (201)224-8144

— BRANCHES —
Los Angeles, Chicago, Houston, Lexington, Seattle

ミドリさん　ＮＹ育英学園訪れ
コンサート

さる10月７日、ニューヨーク育英学園講堂において、世界最高のバイオリニストの一人として知られる五嶋みどりさんのコンサートが行われました。

この日はニューヨーク育英学園の小学部の児童約100人のほか、地元ノースクリフ・スクールの３年生54人も招待して一緒に名演奏を楽しみました。

やや緊張気味だった子供達も、「今日は皆さんと音楽の世界旅行をしましょう。」とみどりさんの軽快なおしゃべりに引き込まれ、リラックスして、しかし食い入るような真剣な眼差しで、目の前で繰り広げられる華麗な演奏に耳を傾けました。

この日演奏された曲は、リムズキー・コルサコフの「くまん蜂の飛行」を初め、モーツァルト、ベートーベンからコープランドまで、それにピアニストのトムさんが披露してくれたショパンの「黒鍵の練習曲」を入れると合計７か国の作曲家の作品８曲。約１時間におよぶ名演奏に子供達は精一杯の拍手で応え、和やかなうちに会は終了しました。



この後、みどりさんを囲んでのフリートーキングや、グランドでの全員の記念撮影、女優の松坂慶子さんと斉藤こず恵さんもインタビューのため駆けつけてくださり、学園の子供達にとって忘れ得ぬ思い出となりました。

ニューヨーク育英学園では、このような一流人と直に触れ合うことで子供達に何かを感じ取ってもらいたいと、これからも機会あるごとに各界の著名人を招いていく予定です。

（福山哲生：音楽科教師）



１年　木村衣沙

ばよりんをきいたこと

１ねん１くみ　のぐちはると
10がつ７日木ようび

きょうごとうみどりさんがいくえいへ、きました。おんがくをしてくれるからです。おんがくが、はじまったら、しずかになりました。きいていたら、なぜか、なみだが、でてしまいました。ので、目を、ふきました。そうしたら、すぐきょくがおわってしまいました。ぼくはかなしいな！、とおもいました。かえりにさいれんが、なりました。だからみみをふさいで、しまいました。

五嶋みどりさんに会って

５年１組　神徳雄介

今日は五嶋みどりさんが来園しました。席はあまり良くありませんでしたが、充分に音楽は聞けました。

最初、ＮＨＫのおじさんが来て、見えなかったけど、角度をずらしたら見えました。五嶋みどりさんが入ってきました。すると、育英学園の講堂ははく手でいっぱいになりました。みどりさんは、

「音楽で世界のいろんな国に行きましょう。」

と言いました。

最初は『くまんばちの飛行』という曲です。手がとても細かく動いて思わず、

「すごい‥‥」

と思ってしまいました。五嶋さんのひいた曲は、ほとんどしらない曲でしたが、とても素晴らしいという事は分かりました。

五嶋さんは世界的バイオリニストで、そんなすごい人をごく間近で見れて、とてもうれしいです。『メヌエット』、『ソナタ第８番』といろんな曲を聞きましたが、バイオリンも上手いけど、なんといっても音がきれいです。同じ音でもやさしく感じる時もあったし、強く感じる時もあって一つ一つの音が生きているようです。目をつぶったら、その作者の思いが目にうかんで、そんなことをしてたら、えんそうが全て終わってしまいました。ぼくは、

「もっと聞きたいなぁ。」

と思いました。一礼してステージを下りると、はく手がなりやまなくて、

「やっぱりみどりさんはすごい。」

と思いました。

その後、女ゆうのまつざかさんとさいとうさんが来ました。その時、

「あっ、これはボンカレーの人だ！」

と思って、

「こんな人に会えるとは‥‥」

とおどろきました。

印象のこい一日でした。

ニューヨーク育英学園 フレンドシップ・ファンドへのご協力のお願い

1979年、マンハッタンの一室で数名から始まった本学園は14年後の現在200名余りにまで成長し、海外に於ける数少ない幼小一貫教育の場として、これまでに800余名の児童の保育、教育に携わってきました。本学園は日本国内に母体がなく、現地アメリカで父母と教師が一体となって草の根的に出来てきた私立の学校（非営利団体）であり、アメリカに於ける日本人学校としての公教育的な役割を果してきました。

本学園は米国で暮らしながらも、日本人としてのアイデンティティーを十分に体得し、さらにその上で米国社会との交流や様々な活動を通じて、諸外国の社会や文化をも理解できる真に豊かな国際人の育成を目指しています。

さて、数名から始まった本学園も、これまでに幾多の試練に見舞われました。園舎リース切れによる立ち退きも含めて５度に亘る移転を繰り返しました。その間、数知れない方々の援助のおかげで、ようやく現在の園舎を借用することができ、現在に至っております。

しかしながら、海外に於ける幼稚園・小学校の運営には非常に厳しいものがあります。園舎の維持管理にしても、これまでスタッフ一同が手作業で行ってきました。設備の充実、運営資金の確保のために学園関係者が一丸となって開園以来バザーやファンドレイジングを行ってきましたが、ここにきて、それだけでは運営が非常に困難になってきました。アメリカにある私立の日本の学校ということで、非営利団体であるにもかかわらず、日本政府からもアメリカの政府からも援助を得られず、両者の狭間で苦しんでいる状態です。

そこで、今回広く日米の皆様のご援助を頂くことを願って、ニューヨーク育英学園（英語名：Japanese Children's Society, inc.）フレンドシップ・ファンドを設立しました。

【特典】

・フレンドシップファンド・オリジナル版画 & Certificate of Appreciation（感謝状）を送ります。
（東京芸術大学美術学部及びメキシコ国立大学大学院を修了した岡本園長がこのために『ニューヨーク』をテーマに版画を作りました。）
・学園のトーテムポール（1994年３月完成）に随時、名前を刻みます。
・法人の場合、本学園の定期刊行物に広告を載せます。

【日本の子供達へ特別企画】

ニューヨーク育英学園
体験入学・ホームステイ・観光

期間：　1994年８月17日頃から約１週間

対象：　個人でご協力頂いたご家族の３年生以上の小学生５名程度
参加希望者多数の場合は抽選

宿泊場所：　教師など学園関係者宅

諸経費：　体験入学・宿泊費は無料。
ニューヨークまでの往復の諸経費は各自負担願います。
成田空港から本学園までの往復の移動は本学園の関係者が付き添います。

お問い合わせは

日本　〒156　東京都[redacted]
ＮＹ育英学園「フレンドシップ・ファンド」
[redacted]

ｱﾒﾘｶ　Japanese Children's Society, Inc.
(NY Ikuei Gakuen)
JCS Friendship Fund
8 West Bayview Ave.
Englewood Cliffs, NJ 07632　U.S.A.

日本語で下記までどうぞ
TEL　米国（1）201-945-5151
FAX　米国（1）201-944-3680

各紙に取り上げられる

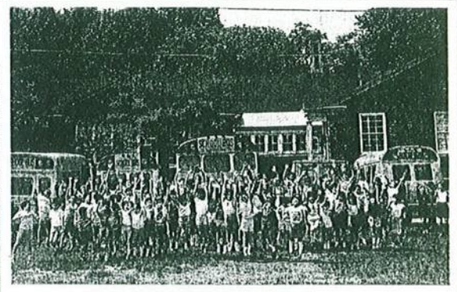
“フレンドシップ・ファンド”

教育基金を募集

設備、内容面の充実を

NY育英学園

東京新聞
1993年(平成5年)10月31日(日曜日)



全日制私立の日本人学校、ニューヨーク育英学園（岡本徹園長、幼・初等部児童百九十人）では、教育設備と内容面での維持・充実を図るため、このほど「フレンドシップ・ファンド」を設け、広くニューヨーク地区の日系地域社会から基金設立のための支援を求めている。

同基金は、会員制を取っており、企業会員は千五百㌦、個人会員は同五十㌦を一口として募り、三十万㌦を目標に基金を設立、ニューヨーク地区の日本人幼児教育に役立てたい考え。寄付者への具体的な特典は、同学園への優先入学や学園報告書、会員誌の配布など。

同学園は一九七九年に設立され、幼児部（年少・年長）と小学一年生から六年生までの一貫教育を行っている。これまでに進出日系企業約二百社の駐在員子弟を中心に約八百人が同学園で学んでいる。

日本人学校にも不況の影

米の私立「ニューヨーク育英学園」

駐在員撤退で児童一挙に44人減 日本で基金募る

私立の全日制日本人学校として米国ニュージャージー州に幼稚園と小学校を開設している「ニューヨーク育英学園（岡本徹園長）」は、経営安定化のため四月から日本で基金を募り始めた。日本政府からの援助はなく授業料だけに頼る経営だが、不況で駐在する日本人ビジネスマンが減少、そのあおりを受けて児童数が減り、校舎の維持管理にも心配が出てきたから。

十四年前、日本語教師をしていた現校園長がニューヨークのグリニッチビレッジのアパートの一室に、日本人の子供を集め、日本語で教育する幼稚園「よい子学園」を開いた。

日本人の子供なのに、日本語も英語も不自由な子供が多い中で、一番吸収力のある時期に、日本語の確立をすることが第二言語の習得にもベターとの考えが基礎にあった。

ニューヨーク周辺の日本人子女の九割近くは、現地の公立学校に通う。文部省から教師が派遣されてくる

DONORS

12/5/93現在

THE LONG-TERM CREDIT BANK OF JAPAN, LTD.
SHISEIDO AMERICA INC.

MITA COPYSTER AMERICA, INC.
NISSAN FINANCE OF AMERICA, INC.
OKAYA(U.S.A.),INC.
SUMITOMO HEAVY INDUSTRIES(USA), INC.
THREE BOND INTERNATIONAL, INC.
ZEN-NOH UNICO AMERICA CORP.
SUMITOMO MARINE AND FIRE INSURANCE CO., LTD.
KINTETSU INTERNATIONAL EXPRESS

ASAHI SHINBUN INT'L INC.
IWATSU AMERICA INC.
NOMURA ASSET MANAGE U.S.A., INC.
MARUBENI AMERICA CORPORATION
MITUI TRUST BANK(U.S.A.)
COSMETIC DENTAL CERAMICS SYSTEM CORP.
TOSHIO KISO, CPA
ISHIKAWA CULTURAL FOUNDATION
KANKAKU SECURITIES(AMERICA), INC.
NTT DATA COMMUNICATION SYSTEM CORP.
DAIKI A. D.D.S., P.A.
DR. E. NINOMIYA
DAIWA INSTITUTE OF RESEARCH AMERICA, INC.
JAPAN KARATE ASSOC. OF N.Y., INC.
GAKKYUSHA U.S.A. CO., LTD.
SUPER HEALTH
NOMURA SECURITIES INT'L, INC.

Mr. Tetsuo Ohkochi
Mr. Akiyoshi Tanaka
Mr. Yasuo Shigekiyo
Mr. Shinya Abe
Mr. Shigeru Asai
Mr. Toru Gotoda
Mr. Kiyoshi Hasegawa
Ms. Kuniko Hasegawa
Ms. Michiyo Ishizuka
Mr. Akimitsu Kamori
Ms. Michiko Komura
Mr. & Mrs. Nakagawa
Mr. Wataru Ohashi
Mr. Yasuaki Kumai
Mr. Teiji Maeda
Ms. Reiko Mizukoshi
Mr. Kunihiko Nakai
Mr. Kunitaka Sakai
Mr. Tatsuru Shirakawa
Ms. Setsuko Takusagawa
Ms. Asako Tohata
Ms. Shizuko Yamamoto
Ms. Toshie Yoshida
Mr. Kenji Higashide
Mr. Yoshitaka Kawamata
Mr. Takashi Osako
Mr. Kiyoshi Igeta
Mr. Hidetaka Itahashi
Mr. Naoki Kato
Mr. Katsuya Kuwabara
Mr. Manabu Miyazaki
Mr. Mitsuo Nakajima
Mr. Yasuhiro Nomura
Mr. Masahiro Sasakawa
Mr. Kenichiro Shimokawa
Ms. Minako Unno
Mr. Atsuo Watanabe
Dr. Seiko Shimizu Chamberlin
Mr. Yoshitaro Kawano

♤ＮＹ育英学園　フレンドシップ・ファンドへのご協力　ありがとうございました。◇

